

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500321		
法人名	有限会社 ケアコスモス		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	岐阜県中津川市千旦林2111-2		
自己評価作成日	平成23年10月7日	評価結果市町村受理日	平成24年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPublic.do?JCD=2171500321&amp;SCD=320&amp;POD=21">http://www.kai.gokouhou.jp/kai/gosi/p/infomat/onPublic.do?JCD=2171500321&amp;SCD=320&amp;POD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで、のんびりした環境にあり、天気の良い日は恵那山をはじめ、御岳山、中央アルプスも眺められます。施設の周辺は平地で散歩がしやすく、田畑に囲まれています。散歩時は、近所の方から野菜や花をいただいたりして、気に掛けていただいております。今年度は、大きな災害が起こり、危機感を感じ避難場所の確保、備蓄の用意等災害時に備えた環境作りを心がけました。推進会議を通して、地域との関わりも少しずつ増えて来ました。それにより、グループホームでの利用者さんの生活の様子を知ってもらうことも出来ています。災害時1人でも多くの地域の方に、グループホームを思い出して協力して貰えたらと思い可能な限り、地域行事への参加に勤めて私たちも地域の一員となれるよう頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がその人らしく、ゆっくりと穏やかに生活が送れるように、ケア内容を毎日のミーティング・カンファレンス時に話し合っあっている。また、地域との繋がりを大切に、近くの喫茶店に行ったり、家族・地域の協力を得て五平餅作りにも力を入れている。利用者が重度化が進む中、最期までその人らしく住み馴れた場所で生活が出来るようにするには職員のスキルアップが今後の課題と管理者は思っている。地域の方の協力を得て夜間想定避難訓練を定期的に行い、その都度マニュアル・備蓄を見直し、砂利をアスファルトへの変更を行い、避難が安全に行う努力をしている。代表者は、季節の食材で食事を楽しんでもらう事を大切に、食べたい物を聞き利用者と一緒に腕を振るう事もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示し、利用者さんが心穏やかに過ごせるようにカンファレンスでも話し合い、実践に心がけるようにしている。	玄関・スタッフルーム・フロアーに理念を掲げ、ケアプラン作成時やカンファレンス時に理念の「その人らしく、ゆっくりと穏やかに」を基にケアを提供しているか確認しながら日々実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りや清掃作業などに積極的に参加し、交流に心がけている。散歩の時など声をかけていただいたり、老人クラブの方が一緒にお寿司を作りに来ていただいたりしている。	自治会から認知症の勉強会の開催依頼を受けている。老人会・子ども達も参加し、五平餅・お寿司を一緒に作り地域との交流を深めている。また、近くの喫茶店に毎週出かけた後、野菜をもらう等、日常的にもおつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「認知症の理解」ということで説明して欲しいと要請があるので、キャラバンメイトを活用しながら説明する予定がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を行なっている。災害対策では協力して下さる方もいらっしゃいました。	開催日を土曜日に変更する事で、家族の参加が増えた。また、事前に会議の課題を提示し情報、意見等を聞き出す工夫も行っている。防災訓練の実践方法の意見が出され訓練に取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	随時相談にのってもらっているが、介護相談員が月1回訪問され利用者さんとコミュニケーションをはかり、話し合いをしている。2ヶ月に1回の運営推進会議に市役所担当者が参加し実際の状況を知ってもらい協力してもらえるように努力している。	利用者・家族からの相談事を行政を交えて話し合いが出来るような協力関係を作っている。また、書類・制度上で分からない事は頻りに足を運び相談し、話しやすい関係を築きあげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には日中玄関の施錠はしていない。安全性が疑われる際は、家族の了承を得る。	職員同士、ケアの仕方を話し合い行動を制止しないケアを実践している。外部研修にも積極的に参加をしている。研修内容を内部勉強会に活かし身体拘束についての意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会への参加をして意識を高めている。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会への参加をして意識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実際のコミュニケーション、電話での対応を大切にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で要望などを聞く機会を設けたり、家族が面会に来た際に、声をかけ意見を言いやすい環境づくりに心がけている。	病院受診日・面会時など来訪時に要望・意見が言いやすい雰囲気作りに努めている。家族からの要望として上がった意見(家族会の場所提供・回転灯の設置)を取り入れ運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、月1回のカンファレンスでスタッフの意見を聞き、出来る事から反映させている。	管理者・社長と一緒に毎朝ミーティングを行い、困っている事、ケア内容などを話し合う機会を設けて、意見を出し合っている。日勤・遅番の勤務時間帯の変更を取り入れるなど運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスに伴い、スタッフの向上心を高めてもらえるよう、研修参加や資格取得の為に勤務状況への考慮をしている。他勤務希望を可能な限りいれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスに伴い、スタッフの向上心を高めてもらえるよう、研修参加や資格取得の為に勤務状況への考慮をしている。他勤務希望を可能な限りいれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のGHでの複数事業者における意見交換、合同勉強会を施行等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念に基づき、入所者を知るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時に家族・本人の思いなどを聞くようにしている。その後も折に触れ、又電話等でも話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話していく中で、必要時サービス利用も取り入れられるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の好きなこと、得意な事を見つけ、強制的ではなく、やってもらえるよう接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人の協力でプランの立案、施行が可能となっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	部屋になじみのぬいぐるみや、好きな花などを飾っている。友人が訪れ楽しく話されていることもある。	長期の利用者が多くなってきており馴染みの場・人との関係が薄くなっていく中で、家族の協力を得て馴染みの物を持ってきてもらったり、外食・美容院・病院などに行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時にくつろぎやすいよう、椅子、ソファなどの配置を考慮したり、なるべくホールでみんなで過ごせるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も差しさわりのない程度に対応させてもらっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者さんが発する言葉や行動・反応を大切にし、思いを感じ取るように心がけている。	入居時の情報をもとに、これまでの生活歴を探り、家族の面会時や日常の生活の会話の中から、利用者の発する言葉を大切に、思いや意向の把握に努めている。また担当制にする事で、情報が得やすくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント表の活用をし、なるべく近づけるように心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「いつもと違う」に気をつけながら、日々その人と向き合っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんの担当スタッフを決め、毎月ケースカンファレンス、日々のミーティングなどで検討している。家族の要望も組み入れるよう心がけている。	利用者一人にスタッフ2人の担当制とし、ミーティングで話し合い、モニタリングをし、介護計画を作成している。サービス担当者会議で利用者や家族、スタッフを交えて検討し、参加が出来ない家族には、事前に意見を聞いて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26と同様のほか、介護計画を一つのファイルにいれ、意識して記録に書きとめ意識づけるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り行なえるよう努力している。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	健康体操、ボランティアの活用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが本人のかかりつけ医をもっており、家族と一緒に受診している。家族が付き添えない時は、職員と一緒に受診し結果を家族に報告している。精神科医との連絡を必要時とって、協力してもらっている。	かかりつけ医へは家族と一緒に受診し、家族と連絡を取り合っている。歯科は提携医に往診してもらっている。急な症状の変化は、提携医から往診を受け、適切な医療が受けれる体制作りをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に看護職がいる。利用者の変化や気付きは報告を受け、必要時適切な指示を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリー、紹介状などを渡し、必要時には直接申し送りに行く。入院後も連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時にターミナルを含めた本人家族の思いを聞くようにしている。要介護度の平均が3.5ほどになってきている。状態の変化とともに家族の思いを聞きながら、方針を決め、今出来る限りの介護に取り組んでいる。勉強会にも参加している。	重度化に関する方針を家族に説明している。本人、家族、医療関係者と話し合い、本人や家族の希望に沿った最期を迎えられるようにするため、勉強会への参加、マニュアルの作成など、職員のスキルアップを図ると共に体制作りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡のパネルを作り定位置に置いている。救急隊の指導(受講)はしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを都度見直し、避難訓練を実施している。地域の人共に避難訓練実施。非難場所の確保、備蓄の用意をしている。	マニュアルの見直し、避難経路をアスファルトへの変更など避難訓練から活かしている。地域の方には、利用者の状況を伝え災害時の協力体制を作り上げている。日用品・食料品等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の職業歴、環境、性格などを考慮し言葉がけをするように心がけている。	利用者の人格に配慮した言葉掛けや対応をしている。言葉掛けには充分注意し、気になる場合はその都度、職員間で話し合い見直しをしている。排泄や入浴介助時の羞恥心への配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	23と同じ。また、本人の言葉が引き出せるように声掛けをし、自分の意思表示、決定ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行動内容を把握し、言葉がけを行い希望を聞き その人のペースを見るなどし無理強いをしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に出来るだけ自由にさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好、食事の摂取状況を考慮し献立を考えている。下準備・後片付けが出来る人は声をかけ一緒に行っている。	メニューには昔懐かしい物や旬な野菜を取り入れ、郷土料理を中心に材料を吟味し、食べる事の大切さを一番に考えている。職員と一緒に食事をし、利用者同士の会話が弾むように心配りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない場合、チェック表の活用、食事形態などを工夫し少しでも摂取量が増えるようにしている。また、尿量は可能な範囲でチェックし、必要時は水分補給に勤めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染防止のうがい、手洗いを促している。また、口臭にも気をつけながら、口腔ケアを促し介助している。		

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとにトイレ誘導を行なっているが、個々の行動、しぐさなど観察し排泄のサインをつかみ誘導するよう心がけている。カンファレンスなどで個々の排泄の状況を確認し、自立できるような様子が見られれば自立への援助を行なっている。	重度化し、なかなかトイレ移動が困難になってきている中で、個々の排泄チェック表から排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排泄パターンを把握するようにしている。野菜中心の食事とし、可能な限り歩いてもらい、水分をしっかりと取ってもらうように心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日、時間は決まっているが、個人の要望があれば応じている。	利用者の希望や健康状態に合わせ、週2回午後から入浴があり、希望があれば遅番・夜勤者の対応で夜間でも入浴ができる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールに大きなソファを置き、いつでもくつろげるようにしている。体調にあわせ起床、就寝時間を変更している。また、各々の部屋の環境調整にも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当を決め必ず服薬確認している。変化があれば服薬前に看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のもてる力が発揮できる様、得意としている事や、趣味を考慮しながらレクリエーションや生活に参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの喫茶店に出かけたり、天候がよければ散歩、ドライブなど本人の希望を聞きながら行なっている。買い物も回数は少ないが、同様に行なっている。	車イスの利用者も参加し、日常的に近所へ散歩に行っている。月1回、昼食を兼ねて近くの喫茶店へ出かけランチを楽しんでいる。芝桜や蕎麦の花、紅葉見物ドライブ等に出かけているが、重度化が進み、本人の希望に沿った外出には至っていない。	利用者本人の希望を把握し、家族や地域の人々の協力も得て、普段は行けないような場所に出かけられるような取り組みも期待したい。

グループホーム ほのぼの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には「なくなってもよい」事を了解の上で本人が所持することもある。その他、希望時は一緒に買い物に行く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、家族の方や友人に電話をしたり、手紙なども自由に行なっている。場合により、家族の方の了解を得た上で、手紙の内容を確認する事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花などを飾っている。また、利用者さんと一緒に季節に応じた飾り付けを考えている。利用者さんに声をかけながら、室温など環境調整に心掛けている。	天井は高く、太い柱や梁が徹り、明るく、広く、心地良い光や風が通る共用空間となっている。居間には利用者の共同作業の作品を飾り、利用者が思い思いにくつろげる環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	心地よく過ごせる様席順を考えたり、くつろぐ椅子の位置にも考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのものがあれば部屋に置いてもらっている。友人・知人などの訪問も歓迎している。	居室前に暖簾がかかり、各部屋に洗面がある。家族からプレゼントされたぬいぐるみや人形が飾ってある。カレンダーや時計、ホームで作った作品が飾られ、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に合わせて環境・用具の準備をしている。		